

ANM176の効果は人によって異なります。

近年、花粉症など様々な炎症性疾患やガンあるいは生活習慣病は **common disease**（以下では「よくある病気」と言います）と呼ばれています。この「よくある病気」に対する生理活性成分の効果は人によって異なることから、個人の遺伝子（ゲノム）を調べる「ゲノム医療」とその人に合った治療方法を見出そうという「パーソナル医療」が、最近、話題になっています。認知症用の食品素材 ANM176®の効果も人によって異なります。軽い症状から重い症状まで、143名のアルツハイマー病（以下ではADと言います）患者を、3ヵ月ごとに9ヵ月後まで認知機能を検査した ANM176®の臨床試験では、軽い症状の場合は約7割の方が9ヵ月に改善し、重い人でも約4割が改善していました。改善しなかった人でも進行が抑制された方がおり、効果が感じられない人もいました。

AD用の医薬品は約4割の患者に約1年間の進行抑制の効果があると言われます。これらの効果は、その医薬品を使用していない患者と平均値を比較した期間のことで、効果の差がなくなった後は医薬品使用群の方が、かえって悪化するという報告もあります。

AD用の医薬品の効果のピークは投与6~8週間後にありますが、一般に「よくある病気」に対する有効成分の効果は、投与直後には発揮されず、長い場合は発揮されるまで1ヵ月程度がかかります。また、精神的な状態や体の調子が繊細に影響する神経作用に対する効果は、6ヵ月以上経たないと本当のことは分かりません。

現状では、ゲノム解析でADなどの認知症の治療方法を予測することはできません。そこで、一般社団法人認知症予防・改善推進会（以下、当法人と言います）が実施するANM176使用者検診サービス（以下、「ANM176検診サービス」と言います）では、各地域において、1年に1回の認知機能の検診を無料で受けることができます。「ANM176検診サービス」が受けられない場合、アンケートによって認知機能をチェックするANM176使用者の記憶力・認知機能チェックサービス（以下、「ANM176チェックサービス」と言います）が用意されています。「ANM176チェックサービス」では、6ヵ月ごとに認知機能の定期的なチェックを無料で受けられます。これらのサービスによって、ANM176®の効果をご自身で確認し、脳の健康管理に役立てることができます。

ADの原因たんぱく質と言われているβアミロイドには記憶力や学習力を低下させるβアミロイド神経毒性があります。フェルラ酸とガーデンアンゼリカ根の抽出物に配合したANM176®の製造にはβアミロイド神経毒性抑制12成分が一定量含まれるように管理するノウハウがあり、フェルラ酸やガーデンアンゼリカ根あるいはその両方を配合した他の商品と効果が異なります。ANM176®は単独使用や認知症の医薬品と併用してADの進行抑制効果が臨床試験で示され、また、この試験に参加したMCI（軽度認知障害）レベルの11例中9例が9ヵ月後に改善しました。MCIには認知症の予備軍が含まれると言われており、このことからANM176®は認知症予防の効果も推察されます。

ANM176®に配合されているフェルラ酸は米のヌカから安全に抽出されたものです。ガーデンアンゼリカ根は古くからヨーロッパでハーブとして食品に利用され、欧州医薬品庁は、ガーデンアンゼリカに含まれるフロクマリン類のNOAEL（No Observable Adverse Effect Level、副作用が観察されないレベル）基準を示しています。ANM176商品の標準使用量から摂取されるフロクマリン類は、ANM176®のβアミロイド神経毒性成分の含量管理から、NOAEL基準内となっています。

以上の詳細は URL : http://ninchi-yobou.jp/interested/pdf/anm176_kouka.pdf をご参照ください。